

賢明なる町民諸氏に訴ふ!!

2. 7. 15

所謂吾婦支部乱闘事件の真相を發表
し、町民諸氏の公平なる批評を仰ぐ

七月三日

夜九時過ぎわが吾婦町は極度の不安に襲はれた。モスリンの山田がやられた「吾婦支部の事務所を人殺しがあつた」との飛報は如何に町民諸氏の心に動搖を與へたことであらう。事件は今や寺島署によつて嚴重に取調べられつゝあり、全ては法の力によつて黑白が決せられるのでありませう。只我々は一時的には云へ町民諸氏に非常な不安を與へたことを深く陳謝すると同時に、事件の當事者として問題の真相を正確に報告し、もつて町民諸氏の公正なる御判断を乞ふ次第であります。

我々東京モス吾婦工場全従業員はかつて日本労働総同盟の内部にあつて階級戦線上に堅實なる方針と穩健なる方法を以て運動をして來ましたが、たゞ無産政黨問題を中心に意見の相違を來たし我々は總同盟の古い看板を守り、社會民衆黨を支持せんとする總同盟より脱退して日本労働組合同盟を組織して日本労働黨を支持して來たのであります。其後我々は腐敗萎縮した總同盟に對抗し、勇敢に且つ堅實なる運動をして來たのであります。

たゞ日本紡織労働組合吾婦支部(東京モスリン吾婦工場)の内部にて二の不平分子に策動せられて遂に二つに分裂したものであります。

其一方は總同盟に又復、おく面もなく頭を下げて行つて、一方は依然として階級的立場を嚴守し日本紡織労働組合を死守する事を誓つたのです。

其後、日本労働総同盟へ行つた連中は、如何なる態度をとつて來たか!!

工場内にあつては我々の事を中傷譏諷し、根も葉もない悪口を云ひ、婦人に對しては頭からおごかし、一度脱退を聲明した我々吾婦支部の事務所及電話其他の財産に對して未練其の措く所を知らず、度々事務所へ來ては脅迫的な言葉を以ておごかしつたのです。然し我々は之に對して一回だに暴力を行使した事

はなかつた、そして常に理論を以て堂々と相手になる事を聲明した。其後七月三日夜又も彼等は日本労働総同盟東京紡織労働組合吾婦支部會計部長梶山君を先頭に約三四十名の人數で、我々日本紡織労働組合吾婦支部事務所を押しかけて、たゞ居合した、山田高吉君(日本紡織労働組合吾婦支部青年前衛隊長)に對し暴行を加へ木には短刀にて頭部一ヶ所脊中から肩にかけて致命的の重傷を負はせ(加療一ヶ月を要する)て去つたのであります。

賢明なる町民諸氏よ!! 公平なる諸君の御批評を仰ぎます。同じ工場に働らく兄弟がかかる非人道的な行為をして、之でも總同盟の運動方針が正しいと云へるでせうか。一度脱退を聲明して其財産に對して何等の權利もなき者が、かかる暴力的行為によつて財産をカッバラウとした總同盟の運動方針が正しいでせうか。

我々にはかかる重大なる問題に對して輕舉自動を謹みます。言論にしる腕にしる彼等如きにおとる者ではない。然し我々は慎重に考へる!! 此の上我々が彼等に向つて戦を開始するならば、火に火を以てするの例へて吾婦全町はおろか附近一帯は戦亂の巻と化するであらう。之こそ社會を騒がせ人心を動搖せしめる事が他にあらうか。

右に述べたる如く我々はあらゆる感情、憤激、無念、血潮の高鳴りをおさへにおさへて此の際法の定める處により適當の處置を仰がんとするものである。

三度び賢明なる町民諸氏に訴ふ

我々には以上の如き簡單なる經過を報告し公平なる諸氏の御批判を仰ぎます。

追而七月四日各新聞夕刊及號外記載の『日労働連三百餘名が集合 總同盟系の後援を發た、き云々』の記事は全然新聞記事の間違にして其の點も御諒承下ましますや。

昭和二年七月四日

日本労働組合同盟

日本紡織労働組合本部

日本紡織労働組合吾婦支部